

ドロップ・サイト・デیلیー、1月26日：イスラエルがガザでパレスチナ人3名を殺害、最後のイスラエル人捕虜が解放される；ミネソタ州のICU看護師が国境警備隊員に処刑され、米国の抗議が激化；ハルツームで集団埋葬地を発見

脇浜義明訳 *脚注は訳注

ガザ・ジェノサイド、西岸地区、イスラエル

***過去24時間の死者数：**ガザ保健省によれば、死者2人と負傷者20人が病院へ搬送された。2025年10月11日の停戦初日以降の死者は486人、負傷者1,341人で、瓦礫の中から回収した遺体は714人に達した。2023年10月7日以降の犠牲者累計は、死者数71,660人、負傷者171,419人となったが、実際の負傷者数は保健省発表の3～5倍になると見積もられている。

***週末のイスラエル軍のガザ回廊各地への攻撃で、少なくとも4人が死亡、少なくとも7人が負傷：**24日、イスラエル軍はジャバリアやハーン・ユーニスを含むガザ回廊全域を砲撃、ドローン攻撃、銃撃を行い、少なくとも4人のパレスチナ人が死亡した。

***イスラエル軍、ハーン・ユーニスのアル・マワシ地区で男性を射殺：**アル・アクサ・ラジオやその他のパレスチナ・メディアによれば、25日、イスラエル軍はハーン・ユーニスのアル・マワシ地区の近くで、マナール・サイード・アル・マドフン（41）を射殺した。

***イスラエル軍、ジャバリア難民キャンプのUNRWA診療所を砲撃：**25日イスラエル軍はジャバリア難民キャンプの中にあるUNRWA診療所を砲撃し、妊婦と若い男性の2人が負傷した。

***イスラエル軍の攻撃でアッシーファで民間人死亡：**シェハブ通信によると、25日、ガザ市東部のアットゥファーフ地区で砲撃と銃撃があり、砲撃で死亡した2人目のパレスチナ人がアッシーファ病院へ搬送された。

***イスラエル軍のシャウワ・タワー攻撃で4人負傷：**衛星テレビ、アル・ジャジーラ・ムバシエルによれば、25日、イスラエル軍はガザ市のシャウワ・タワーの屋上にある無線送信施設を攻撃し、パレスチナ人4人が負傷した。この攻撃は、2年間放送停止だったサウト・アル・クッズ・ラジオが先週に日曜日に放送再開した後に行われた。

***イスラエル海軍の攻撃でパレスチナ人漁師が負傷：**マアン・ニュースによれば、ヌセイラト沖でイスラエル艦船の攻撃で、パレスチナ人漁師が負傷し、漁船が損傷した。ガザ漁民委員会の発表では、イスラエル海軍の艦艇が、ワディ・ガザの西で複数のパレスチナ人漁船に向けて機関銃とロケット弾を発射し、ユセフ・アハマド・サラールの船が損傷し、砲弾の破片で彼が負傷した。

***アル・カッサム旅団が位置情報を提供し、イスラエル軍が、10月7日に人質の遺体を回収：**イスラエル国防軍のXアカウントに掲載された声明によると、2023年10月7日に人質となったイスラエル特殊警察部隊の隊員、ロン・グヴィリの遺体が回収され、本人確認ができた。25日、アル・カッサム旅団が、グヴィリの遺体の所在情報を停戦調整官に報告したと発表したことを受けてのことである。一方、パレスチナ人の遺体は数千体が瓦礫の下にいるままである。

***ラファ・クロッシング、近日中に再開：**26日、イスラエルはガザ回廊とエジプトの間のラファ・クロッシングを近日中に開くと発表した。イスラエル首相府はXでの声明で、「イスラエルは、イスラエルによる完全な監視体制に下で、歩行者の通行にのみ、限定的にラファ国境通路の再開をする」と発表した。これは、前に、ネタニヤフ首相が、人質ノグヴィリの遺体が発見され、収容されたラファ・クロッシングを再開すると述べ、26日朝に遺体が回収されたことを受けての措置である。ニューヨークタイムズは、これによって外国で治療を受ける必要がある患者がガザ回廊を出ることができると、援助関係が期待していることを報道した。イスラエルは依然として外国人ジャーナリストのガザ回廊入域を拒否しており、停戦開始から3か月以上も経過し、国際援助機関のガザ回廊への立ち入りを許可しているにもかかわらず、26日午前の最高裁審理では、政府はイスラエル兵が危険にさらされると主張している。

***ハマス、イスタンブールで停戦についてトルコと協議：**ハマスの声明によると、ハマス指導部は、24日、イスタンブールでトルコの情報機関の長イブラヒム・カリンと会談し、「戦争終結」に向けた停戦の第一段階と第二段階の約束の履行について協議した。ハリル・アル・ハヤ率いるハマス代表団は、ハマスとトルコは、ラファ・クロッシング開通、ガザ統

治民族委員会の設置、支援物資やシュエルターへのアクセスの拡大など、「具体的措置」に関して協力を継続することで合意したと発表した。

***ウォールストリート・ジャーナル、ガザ飢餓のときイスラエル支援の民兵団にイスラエルが物資提供と報道：**イスラエルの予備役兵がウォールストリート・ジャーナル紙に、昨夏のガザ飢餓の時、イスラエル軍が護衛する「援助物資」コンボイが、イスラエルが資金と武器を与えてハマスに抵抗させ、破壊活動を行わせている民兵団に、食料、水、タバコ、及び中身不明の密封された箱を届けたと語った。ウォールストリート・ジャーナル記事によると、イスラエルはこれら反乱暴徒に、情報、武器、ドローン、援助物資を継続的に与えている。彼らを使うことによって、停戦協定で直接立ち入りできない地域でも、ハマスを弱体化できる。元ガザ師団将校のヤーロン・ブスキラはこの関係を認めている。

***西岸地区ビルゼイトで入植者の攻撃でパレスチナ人4人が負傷：**Wafa 通信によると、ラマッラー近郊のキリスト教徒の町ビルゼイトで、イスラエル人入植者が住宅を襲撃し、家族4人が負傷した。入植者たちは家の中にいた女性とその息子に投石した。女性は頭部に重傷を負い、ラマッラーの病院へ搬送された。その後イスラエル軍が民間人に催涙ガスを発射し、若者3人を逮捕し、入植者たちの無法暴力を咎めずに、立ち去りを許可した。イスラエル軍は、タイムズ・オブ・イスラエル紙の取材で、パレスチナ人が投石したという報告へ対応し、入植者1人が軽傷を負い、投石の容疑者1人を逮捕したと述べた。入植者のテレグラム・チャンネルで拡散している映像はビルゼイトのパレスチナ人の説明を裏付けている。動画には、入植者に家を囲まれた住民の一人が自宅を守ろうとして石を投げた光景が映っている。

米国ニュース

***ミネソタの看護師、リーガル・オブザーバーとして活動中に国境警備隊に殺害された：**24日朝、ミネアポリスのウィットティア地区で、国境警備隊は37歳のミネソタ住民アレックス・プレッティを射殺した。これは、ミネアポリスのセントポール地域におけるトランプ政権の移民取り締まり強化の中で、連邦捜査官による殺人の2件目である。政府はプレッティとその仲間の抗議者が「暴力的」だったと主張しているが、入手可能なすべての映像に映っているのは、彼と仲間たちが笛を吹いて警戒を呼び掛けたり、ICE（移民税関捜査局）の暴力を録画する姿である。射殺される前のプレッティもこの行為をおこなっていた。彼はミネソタ州退役軍人病院の集中治療室で看護師として働いていた人物で、家族、友人、隣人、同僚たちから「善良で、心の大きい人」で、移民への暴力的弾圧に反対する人物と評されていた。プレッティ殺害は全米各地で新たな大規模抗議活動を引き起こした。ミネアポリス市の地元指導者らはトランプ政府に取り締まり行為をやめよと要求している。ドロップ・サイトは殺害の様子映像とそれに関するライアン・グリム、メグナド・ボーズ、ラナ・ルーディの分析を発表した。

***上院民主党議員、移民税関捜査局（ICE）改善を求めて、国土安全保障省（DHS）予算案審議ボイコット：**25日、上院民主党議員は、DHSに属するICEの活動を制限する改革を織り込まないならば、DHS予算案審議をボイコットすると表明した。NBCニュースによると、ユダヤ系アメリカ人として始めて連邦院内総務に就任したチャック・シューマーが民主党議員団に、「ICEの抑制、改革、制限」を優先せよと要請した。政府予算案は29日が期限で、他の予算案は受け入れるが、DHS予算案は書き直すべきだと、民主党は主張している。

***トランプ政府、キューバへの原油封鎖強化を検討：**トランプ政府は、キューバの政権交代を目指して、海軍力を使ってキューバへの外国からの原油供給をブロックする計画を検討していると、ポリティコが消息筋3人の話として報道した。マルコ・ルビオ国務長官が支持するこの計画は、今のところ内部検討中である。21日、メキシコのクラウディア・シャインバウム大統領は、米国の圧力にもかかわらず、メキシコはキューバへの原油輸出を続けると述べ、今回の原油輸送を「連帯行為」と呼び、彼女が米国による極度の封鎖と呼ぶ状況の中でも燃料供給を行ってきたと言った。

***移民家族、児童のテキサス州施設収容に抗議：**テキサス・トリビューン紙によると、24日、数十の移民家族がディリーの移民収容センター「サウス・テキサス・ファミリー・レジデンシャル・センター」で抗議活動を行った。ミネソタ州で拘留されたエクアドル人の5歳リアム・コネホ・ラモスとその父親が同センターに移送されたことを受けての抗議である。彼らは「リベルタード」（自由）と叫び、児童の釈放を求めた。弁護士によると、施設内の収容者も共鳴して抗議の声をあげたので、連邦当局は面会者を突然センターから追い出した。「私たちが伝えたいメッセージは、私たち移民を人間的

尊厳と法律に正しく従って扱ってくれということです。私たちは子どもを持つ移民で、犯罪者ではありません」と、デモ参加者が言った。

***トランプ大統領、中国と通商協定を結んだカナダに100%関税を課すと脅迫：**ロイター通信によると、24日、トランプ大統領は、カナダが中国との通商協定を履行した場合、カナダからの輸入品に100%の関税を課すと宣言し、マーク・カーニー首相に、米国の措置はカナダを危険にさらすと脅迫した。カーニー首相の最近の中国訪問は、自由貿易協定を結ぶためではなく、関税紛争の解決のためであった。年内後半に予定されている貿易交渉の前に米国とカナダの間の緊張が高まる中、カーニー首相は国民に国産品購入を促し、トランプ発言を否定した。

***米政府、ボリビアにイラン工作員容疑者を追放せよと圧力：**ロイター通信が関係筋の話として伝えたところによると、米国政府はボリビア政府に対して、イランの諜報員と思われる人物を追放し、イランの革命防衛隊、ヒズボラ、ハマスをテロ組織と指定せよと圧力をかけている。この米国の動きは、イランのラテンアメリカへの影響力を抑制する取り組みの一環で、米当局は昨年社会主義運動を破ってキリスト教民主党的ロドリゴ・パス・ペレイラが大統領に当選したのを、ボリビアにおける好機到来と見てしていると報じられている。ペレイラ政権は、昨年9月にエクアドルがイスラム革命防衛隊、ハマス、ヒズボラをテロ組織に指定したことを受けてチリ、ペルー、パナマでも同じ動きがあることを検討していた。先週、米国の同盟国アルゼンチンが、イランのクッズ部隊をテロ組織に指定すると発表した。

スーダン

***RSFとSPLM-Nが圧力戦術として青ナイルを攻撃：**スーダンの緊急支援部隊（RSF）とジョセフ・トゥカ率いるスーダン人民解放軍北部（SPLM-N）派が、24日、青ナイル川南部のマラカルとエル・シラクを攻撃したが、スーダン軍はそれを撃退したと発表した。ラジオ・ダバンガによると、アナリストはこの攻撃は領土奪取目的ではなく、圧力になる前線を開くことであったと言っている。RSFとSPLM-Nは、エチオピアと南スーダンの国境近くの青ナイル川南部の一部を支配している。アナリストの中には、RSFがエチオピア近くで活動しているのを示す衛星画像があるという者もおれば、国境周辺の敏感な問題や、エチオピアがグラント・エチオピア・ルネサンス・ダムでアフリカ最大の水力発電所建設計画を考えると、エチオピアの直接関与は考えにくいというアナリストもいる。

***ハルツームのアッリヤド地区で集団墓地が発見された：**アナドル通信が地元情報筋の話として伝えたところによると、ハルツームのアッリヤド地区で数千人の遺体が埋葬された2つの集団墓地が発見された。犠牲者は、以前RSFが使用していた場所で拷問を受けて死亡した人たちと見られる。スーダンのインティサル・アハメド・アブデル・アール司法長官は、犠牲者の遺体を掘り起こして、改めてきちんと埋葬する作業を進めており、軍が5月に同地区を奪還した後も、まさかこんなに大きい殺戮規模とは思わなかったのが、発見が遅れたと言った。ハルツーム州では、法医学調査ですでに15,000以上の遺体が掘り起こされている。

***スーダンの大臣、RSFが紛争地域で組織的レイプを行っていると言：**スーダンのスレイマ・イシャク・アル・ハリファ社会問題大臣は、フランスの国際ニュース専門チャンネルの「フランス24」に対し、緊急支援部隊（RSF）がレイプを組織的に行っており、それも被害者の家族の前で行われることが多く、被害者は1歳から85歳までと幅広いと述べた。また、彼女は、ハルツーム、ダルフル、エル・ファシャルで記録されている強姦は外国籍のRSF戦闘員によるもので、マリ、ブルキナファソ、ナイジェリア、チャド、コロンビア、リビアの戦闘員もいると述べた。

***スーダン軍司令官、週末にエジプト情報機関の長と会談：**スーダン軍のアブデル・ファッターハ・アル・ブルハン司令官は、24日、ポートスーダンで、エジプトの情報機関の長ハッサン・マハムード・ラシャドと会談し、対テロ作戦、紅海の安全保障、人道支援アクセスなどについて協議した。ラシャドはエジプトの支援を約束した。この会談は、エジプトとサウジアラビアが、米国のCIAの援助でカダフィ打倒に尽力し、現在リビア東部で実権を握っている軍閥のハリファ・ハフタル司令官に、リビアからスーダンのRSFへの武器と燃料の流れを阻止せよという圧力をかけている中で行われた。

***南コルドファン州でドローン攻撃、民間人2人死亡：**24日、南コルドファン州ディリングのファス・アッラフマン地区で自爆ドローン攻撃で、男女1人ずつが死亡した。スーダン医師ネットワークは、この攻撃は緊急支援部隊（RSF）とスーダン人民解放軍北部（SPLM-N）が行ったもので、民間人住宅地と民間インフラを意図的に標的にしたと非難した。

その他の国際ニュース

***IS 拘束者の移送を円滑にするために、停戦を15日間延長：**24日、シリア国防省は、クルド人主導のシリア民主軍（SDF）との4日間停戦を15日間に延長すると発表した。これは、イスラム国戦闘員とされる拘束者をシリア北部からイラクへ移送する米軍主導の作戦を支援するため、SDF側も停戦延長を尊重すると表明。この停戦延長は、シリア政府軍がシリア北東部へ展開を続け、数週間にわたる戦闘でSDFが支配地を失ったときに行われた。米政府は、すでに数百人のIS拘束者がイラクに移送されたこと確認しており、さらに数千人を移送する計画である。

***シリア停戦延長の中、コバニへの人道回廊が開設：**25日、シリア軍は、クルド人多数のコバニの町とハサカ県の一部への人道回廊を開設したと発表し、国連の食料、救援物資、燃料を積んだコンボイが包囲された地域へ向かった。この支援は、数週間の戦闘でSDFが広大な支配地を政府軍に明け渡し、トルコとの国境近くのコバニが孤立した時に行われた。

***イスラエル軍の南レバノンとベッカー高原への空爆で、民間人2人が死亡：**レバノン紙『オリエント・トゥディ』と現地のドロップ・サイト記者によれば、25日、イスラエル軍は南レバノンとベッカー高原を13回以上空爆し、民間人2人が死亡し、数人が負傷した。ビント・ジュベイル地区では、クファール・ドゥーニンとビル・アッサラセルの間への爆撃でジャワド・バスマが死亡、バリッシュとデルドガヤの間の爆撃ではスール地区のモハンマド・アル・フセイニが死亡した。イスラエルは武器が保管されている場所を標的にしたと主張しているが、住民は嘘だと否定している。

***コロンビアでヌエストラ・アメリカ（我々のアメリカ）緊急会議：**1月3日のベネズエラのニコラス・マドゥロ大統領の拉致を受け、ボゴタで開かれたヌエストラ・アメリカ会議に20以上のラテンアメリカ・カリブ海諸国の議員、活動家、社会運動体が集結した。これは、西半球全域で高まる米国の政治的、経済的、軍事的圧力への地域としての対応策を協議する緊急地域会議である。参加者たちはこの地域の平和で主権のある未来を推進するサン・カルロス宣言を採択した。この宣言はまた米帝国主義のいっそうひどくなった攻撃的姿勢に対し、幅広い様々な行動をとることを提案している。参加者は、主権、民主主義、平和を守るために地域協力と連帯を深めることを誓い、地域の人々の自決権を破壊する制裁、軍国主義的戦術、強制的措置へ協力し合って対応することを求めた。

***流出した音声テープによると、マドゥロ大統領拘束後、暫定大統領となったデルシー・ロドリゲスは米国の脅迫に直面：**デルシー・ロドリゲスのものとされる音声テープがリークされ、それによると、米軍がマドゥロ大統領拘束から15分後に、デルシー・ロドリゲスと他のベネズエラ高官に、米政府の要求に応じなければ殺すと脅迫した。この音声テープはラ・オラ・ベネズエラが最初に入手し、その抜粋を複数のメディアが報じた。約2時間にわたるテープの中で、ロドリゲスが「大統領を拉致した瞬間から脅迫が始まった」と述べている声があった。米軍は政権の閣僚たちに「ワシントンの要求に応じるか」それとも「殺されるか」の選択を迫ったと述べている。音声テープの中暫定大統領ロドリゲスは「団結」を呼びかけている。これは政権関係者による背信行為の噂への対応と見られる。

***35万人のハイチ人のTPS（一時保護ステータス）¹が失効、国連が危機深刻化を警告：**トランプ政府は、米国在住のハイチ人約35人に対する一時保護ステータス（TPS）が2026年2月に失効し始めると発表した。それに対し、ハイチ国連統合事務所のカルロス・ルイス・マッシュー所長は、23日、ハイチの首都ポルトープランスの80～90%が依然としてギャング支配下にあり、治安はほとんど改善していないと言った。ルイス・マッシュー所長は、国際部隊がハイチのギャング鎮圧部隊（GSS）を支援するために4月1日までに大隊を展開し、夏か秋までには全力投入できる計画だと語った。ハイチではギャングの暴力で約140万人が島から避難し、570万人が食料不安状態で、人道支援活動は深刻な資金不足である。8月下旬と12月に選挙が予定されているが、治安状況に大きな改善変化がない限り、選挙実施の可能性は低いと見られている。

***米国、ハイチ評議会議員のビザを取り消す：**トランプ米政府のトミー・ピゴット副報道官は、米国はハイチ暫定大統領評議会の2人の評議員とその近親者に対し、ギャングへの関与の容疑でビザを取り消し、制裁を課すと発表した。これは、評議会の投票権を持つ7人の評議員のうち5人が、1月22日に米国が支援する首相を解任する決議に署名したという

¹ 本国が危険な状況の移民に対し、米国に留まり働く機会を提供するプログラム。

報道の後に行われた。この解任を公けに発表した評議員はエドガー・ルブラン・フィスとレスリー・ボルテールであるが、この二人がビザ停止措置を受けた人物であるかどうかは不明である。

***BBC、UAEの秘密刑務所を暴露：**BBC ニュースは、サウジアラビアが支援するイエメン政府から、イエメン南部の元UAE基地でかつてアラブ首長国連邦とその同盟国が運営していた秘密拘留施設への立ち入りを許可された。ジャーナリストがこれらの施設に入った最初である。これは、UAEのイエメン撤退後に行われ、同地域におけるUAEとサウジアラビアの間の亀裂が深まる中で行われた。イエメンは、最近までUAE支配地域に立ち入ることが出来ず、これらの刑務所は同地区を奪還後に発見したと言った。

***イスラム国と関係あるADFがイトゥリ州攻撃で少なくとも25人死亡：**25日早朝、コンゴ民主共和国イトゥリ州でADF（民主同盟軍）²の攻撃があり、少なくとも25人が死亡した。地元の人権グループによれば、イルム地域とワレセ・ヴォンクトゥの村々で、被害者は生きてまま焼かれたり、銃撃された。コンゴ東部ではADFやルワンダが支援するM23（3月23日運動）などの武装勢力の暴力が激化している。

***アブダビでのウクライナ協議、合意なし：**ウクライナとロシアは、米国仲介のアブダビでの協議の2日目を、合意ないまま終えた。ゼレンスキー大統領の声明とアル・ジャジーラ報道によると、両者は対話を続ける前向きな姿勢を示した。ゼレンスキーは、戦争終結条件と安全保障条件を焦点に協議したと述べたが、彼は、交渉中にロシアがウクライナのエネルギーを攻撃するという「冷笑的」態度をとったとして、プーチンを非難した。米国特使のステイヴン・ウィットコフとジャレッド・クシュナーも協議に出席した。

***アルバニアの首都ティラナで衝突発生：**アル・ジャジーラによれば、24日、ティラナで、数千人の野党支持者がエディ・ラマ首相の辞任を求めて集会を開き、衝突が発生した。抗議活動を主導したのは、野党指導者サリ・ベリシャだった。警察発表では、デモ参加者が警備線突破を試みて衝突となり、少なくとも10人の警官が負傷し、25人が逮捕された。この騒乱は、数人の政府高官が関与した注目を浴びた汚職事件がアルバニアのEU加盟を困難にしている中で起きた。

ドロップ・サイトからのその他の情報

***CBP（税関・国境警備局）職員がミネアポリスの看護師を射殺した事件のビデオの分析：**24日、ミネソタ州ミネアポリスで看護師ノアレックス・ジェフリー・プレッティが、ニコレット通りで、警官に囲まれてうつ伏せの状態に地面に倒れている状態で、連邦職員から至近距離で数発の弾を撃ち込まれた。この様子を写したビデオをドロップ・サイト入手し、メグナド・ボーズ、ラナ・ルーディ、ライアン・グリムの3人がそれを分析している。

***「イスラエル、ガザを分断するイエローラインを物理的障壁に変える」：**先月、イスラエル軍はイエローライン沿いの土地に土塁建設を始め、パレスチナ人をイスラエル支配地域から物理的に排除し、ガザ回廊を2分した。「これは地図上の支配線から耐久性のある工学的障壁に移行させ、ガザ分断を物理的に固定し、パレスチナ人を自分たちの領土の大部分からいっそう切り離すものである。」

² コンゴ民主共和国東部に拠点を持つウガンダのイスラム主義反政府勢力。